



2025年2月1日(土) 13:00~15:00

やまぶきホール研修室

# 令和6年度 調査報告会

本年度、取り組んだ **自然** **歴史** **文化** 調査について報告します

森と水の源流館では、流域の関係団体や当館の取り組みを応援してくださる皆様とも協力しながら  
様々な調査を実施してまいりました。

川上村には地域特有の生きものや伝統文化など、暮らしとともに培われてきた  
素晴らしい資源がありますが、一方で保全・継承に関わる課題を抱えています。  
そういった課題の解決に向けて専門家の意見も交えつつ学びながら結果を共有し、  
村の価値を語り継いでいけるよう、川上村の豊かな暮らしと共にあった“これまで”を見つめ、  
川上村の事例から全国が抱える同様の問題の“これから”を考えます。

13:00 開会・挨拶

13:10 紀の川源流部に生息する大卵型カジカ

「吉野川源流—水源地の森」自然生態調査

國 島 大 河 氏 (摂南大学応用生物科学科講師)

カジカ大卵型は生涯を淡水域で過ごす日本固有種であり、東北地域から近畿地域にかけての山間部に生息する。奈良県は本種の分布南限とされ、特に吉野川上流域は本種の保全や進化を考えるうえで重要な生息地であるものの、近年の生息状況はよくわかっていない。演者は2019年から三之公川源流域に足を運び始め、2022年よりカジカ大卵型の生息状況や生態に関する調査を開始した。本発表では、これまでわかってきたことを簡単に紹介し、今後の展望を述べる。

13:30

## ニホンジカを利用した樹林更新

源流部における斜面崩壊地での対策実態調査

助言:横田 岳人氏 (龍谷大学先端理工学部准教授)

水源地の森で顕著化している緊急の課題として、下層植生の衰退によって後継樹の供給低下に伴うナラ枯れ後の樹林更新が挙げられる。そこで、2003年から継続している下層植生調査の結果を参考に、採食されても植生が維持でき、設置及び修復が容易な立体構造型防鹿柵を設置し、埋土種子や実生の保護による後継樹の育成を目指したモニタリング調査を開始した。本発表では、設置初年度の速報と今後の展望について報告する。

13:50

## 井光地区の秋祭りと森との関わり

川上村の生活・風習など民俗学的変貌調査

内藤 大輔氏 (京都大学農学部森林科学科助教)

吉野林業の中心地である川上村にて森林・林業について地域林業聞取調査実習を行い、井光地区の秋祭りについて調査した。千本杵の調達と言った直接的なことから、お渡り神事や祝膳など細かく調べると間接的なことに至るまで森との関わりがあり、山村地域に根差した特色ある民俗文化の形成と森林利用が見られた。森林の保全や林業技術の伝承という面からも、森と水の源流館の民俗文化調査と連携し、次世代へつなぐための動向を探る。

14:10

## 地域住民の視点でみる川上村の自然

川上村自然観察研究会活動報告

村民が中心になって活動している川上村自然観察研究会では、今年度、森と水の源流館が協力し、村内で3回の例会を開催しました。植物ではズイナなどソハヤキ要素と呼ばれる面白い分布をするものや村内に多い石灰岩地を好むコクサギなど、普段見ている風景にとけ込んでいる色々な生物を観察しました。観察結果を紹介し、身近にある川上村の自然の価値や保全を考えます。

14:30

## 森と水の源流館周辺の自然

おおたき龍神湖周辺の活用について

森と水の源流館－ホテル杉の湯までの短い遊歩道で開館以来、蓄積してきた自然観察記録では、維管束植物だけで175種を確認しています。歩いて10分ほどの道ですが、大きな発見もありました。おおたき龍神湖(大滝ダム湖)や平成26年に開催された「第34回豊かな海づくり大会～やまと～」の会場跡やシルバードラゴンを望めるビュースポットとしての価値以外に、この遊歩道の自然の価値を考えます。

14:50

## まとめ・ふりかえり